

令和7年度 「副首都・大阪」大学連携プロジェクト リサーチ・プレゼンテーション事業業務委託に係る公募型プロポーザル方式による選定結果について

1 案件名称

令和7年度 「副首都・大阪」大学連携プロジェクト リサーチ・プレゼンテーション事業業務委託

契約期間 契約締結日から令和8年2月27日（金）まで

2 選定した最優秀提案者

特定非営利活動法人 Deep People

3 公募期間

- ・公募開始 令和7年1月6日（月）
- ・公募参加申出関係書類の提出期限 令和7年2月4日（火）
- ・企画提案書の提出期限 令和7年2月13日（木）

4 学識経験者等の意見を聴取する選定委員による審査の結果

(1) 選定委員名簿（敬称略）

委員氏名	役職等
横島 三和子	大阪人間科学大学人間科学部 准教授
藤田 香	近畿大学総合社会学部 教授
古川 佳靖	一般社団法人大阪府中小企業診断協会理事

(2) 選定委員会の開催日 令和7年2月28日（金）

(3) 審査基準

項目	審査内容	配点
事業全般	・本事業の趣旨及び目的が十分理解されており、副首都・大阪PRキャラクター「にゃにわ福まる」を活用するなど、学生の副首都ビジョンへの理解促進や共感の深化につながる内容となっているか。	20点
企画力	・参加学生が社会人基礎力を身につけられる成長の場となっているか（研修内容の充実度）。 ・オンライン形式のなかで他大学の学生間で交流を持つことができ、一体感が得られる内容となっているか（ワークショップの工夫度）。 ・研究活動や発表手法などに精通している講習の講師が選定されているか（ネットワーク力）。	20点

	<p>中間及び成果発表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加学生が緊張感や達成感を得られる構成となっているか（プログラム内容の工夫度・充実度、発表会全体の質向上に向けた取組）。</li> <li>・オンライン形式（中間発表会のみ）も含め他大学の学生間で交流を持つことができ、一体感が得られる内容となっているか（他大学間の学生交流の場の設定の工夫度）。</li> <li>・1～2日間で実施可能な効果的な発表会が運営できる計画となっているか（効果的な運営の工夫度）。</li> <li>・いずれかの研究テーマに精通し、企業視点からの学生への講評等が可能な民間実務経験者が選定されているか（ネットワーク力）。</li> <li>・中間発表会及び成果発表会のいずれについても重視した提案となっているか</li> </ul>	40点
	<p>取材活動の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各々の学生の研究が深まるような取材先の助言や調整が可能か（ネットワーク力）。</li> </ul>	10点
実施体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提案内容について、適切な業務を期限内に提供できる人材を確保した体制となっており、役割分担、責任の所在が具体的に示されているか。</li> <li>・過去に類似の実績があり、必要な実績・ノウハウを持っているか。</li> <li>・学生に対する個人情報や法人情報の保護、著作権の取扱いに関しての指導、管理体制が構築されているか。</li> </ul>	10点
積算の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提案内容に比べて提案金額の積算が妥当にされているか</li> </ul>	10点
計		110点

- (4) 審査を行った事業者（五十音順）  
株式会社キャリアリンク  
特定非営利活動法人 Deep People  
全2者

(5) 審査の結果（選定委員の評価点の合計点）（合計点の高い順）

項目		A社	B社
企画力	事業全般	41点	49点
	全体研修会	44点	49点
	中間及び 成果発表	82点	93点
	取材活動 の支援	20点	22点
実施体制		22点	21点
積算の妥当性		20点	22点
計		229点	256点

(6) 選定理由及び付帯意見

(選定理由)

- ・参加学生へのサポートが充実していた。
- ・全体研修会などにおいて、大阪らしいアイデアや情報共有手法で参加者が打ち解けやすい仕組みが取り入れられていた。
- ・参加学生のやる気を引き出し、達成感をもたらし、社会人になった際にも活かせる力を付けることが期待される提案だった。

(付帯意見)

- ・今後の事業実施にあたっては、特に中間発表会の会場や参加者の日程調整など、事務局と十分調整して、進めてほしい。
- ・副首都・大阪PRキャラクター にゃにわ福まるを活用して、参加学生が副首都・大阪を身近に感じる提案があったが、本業務の目的は、「副首都をテーマにした学生による演習・研究活動を通じ、社会人基礎力の向上だけでなく、次世代を担う若者が大阪の将来や、今後の日本を考える契機とするとともに、副首都ビジョンの理解促進と副首都の実現に向けた機運醸成を図り、もって「副首都・大阪」の認知度向上につなげること」であるため、大きく乖離しないよう、留意いただきたい。
- ・発表会等を考えると、実施体制がやや少人数と思われる。万が一にも当日トラブルがないよう、運営面については事務局とよく調整し、対応いただきたい。
- ・社会人基礎力が評価・フィードバックできる仕組みを取り入れると、参加学生にとってより良いのではないかと。仕様書作成にあたって、事務局と調整して、進めてほしい。